明治四十二年九月十五日發行（毎月一回十五日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第六巻
第八號

要目

人格的感化の秘密
神の準備（説教）
神意何くにかある
ブラウニングの『アンドレヤ、デル、サルトオ』
ヘレンケラアの實驗談
耶蘇の教へたる正義
心の花

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子　第六巻　第八號

目次

◎社説

人格的感化の秘密

◎講壇

神の準備　大谷廣

◎靜思の友

神意何くにかある○死の兩側面

◎説苑

ブラウニングの『アンドレヤ、デル、サルトオ』に就きて　マクドナルド

◎史傳

『我が住む世界』＝ヘレン、ケラアの實驗談（下）

◎聖書研究

聖書研究の必要　志良爲

耶蘇の教へたる正義（上）　柏井園

◎心の花

ヘレン、グウルド女史の聖句諳誦同盟

◎女子青年界

◎編輯机上

數則

日本基督教女子青年會 本部の移轉

日本基督教女子青年會本部は東京市麹町區三番町四十一番地に移轉す

部數	定價（郵税共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

明治四十二年九月十四日印刷

明治四十二年九月十五日發行

東京市麹町區三番町四十一番地

發行兼編輯人　エー、シー、マクドナルド

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷人　島連太郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地

印刷所　三秀舍

人格的感化の秘密

アリス、フリイマン、パアマアの傳を讀む

近頃米國の一友人より受けたる手紙の中に『君若し今も米國の事物と接觸を保ちつつあらんとせばアリス、フリイマン、パアマアの傳を讀まざるべからず』と。其の前後一二の友人より此の書に就て推奬の語を聞きしこともありければ此の頃閑を偸んで此の書を讀めり。興味盡くる所を知らず、二三日にして讀み了れり。著者はハアバアト大學の教授ヂョオヂ、ハアバアト、パアマア博士にして、書中に傳へられたる人物は即ち其の亡き妻なるなり。余は四五年前米國にありし頃一度パアマア教授の講演を聽くの機會を得たるが、其の紳士的なる風采と學者らしき頭顱今尚ほ眼前に彷髴たるを覺ゆ。今や此の書を讀んで眞の紳士の筆によりて眞の婦人の描されたるを見る。夫なる人妻の傳を著す我國に於ては例少き事にして又試み易からざる業なるべし。然るに此の書の如き極めて淡泊に單純に然かも品良く、總ての點に於て適度を失はざるを見る。此の如き人あり又此の如き書あり。北米合衆國も未だ全く物質化したる天地にはあらじ。

先づ此の婦人の一生を略記すれば、彼女は千八百五十五年二月十二日ニウヨオク洲のコオルスビイルと云へる田舍に生れたり。父はスコットランドの血統を受けたる强健にして且つ至つて親切なる人物なりき。アリスは母が十七才の時生れたる初兒にして四人の妹相踵ぎて生れたり。家は貧しかりければアリスは幼時より家事の手助を爲し數多き妹の爲に小さき慈母の役を務めたり。アリスの生れし頃父は農業に從事せしが、醫者と爲らんことを思ひ立ち、アリスが七才より九才に至る二年の間オルバニイの醫學校に入りて醫學を勉强したり。此の二年の間女の手一つにて四人の小兒を養育し加ふるに夫に修學の費を送りたる母の苦勞一方ならざりしなるべく如何にして貧しき中に之を爲し得しか驚くべき事と云はざるを得ず、父業を卒へて歸るに及び家計もやや改まり且つ職業の關係より、其の鄕閭の間に善き事を爲し得る事となれり。此の人又長く其の地の長老教會の長老に擧げられ、信仰厚き夫婦なりしことも記せざるべからず。アリスは此の如く幼少の頃より貧しき家に生長して人生の現實と接するの機會を與へられしこと、殊に醫者の娘としては人の痛み苦しみを見之を勞はる心を養はれしこと、田舍に生長して自然の美を愛す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る情緒に富みしこと等は其の人物を造り成せし大切なる要素なりき。父は醫者を開業して後日ならずして近傍の小都會なるウヰンゾルに居を移せり。此處にはウヰンゾル、アカデミイと云へる學校ありて小學校よりは程度高き課程をも敎へたり。アリスは十一才の頃此の學校に入りフランス語、グリイキ語、ラテン語、數學など學びたり。此の學校を卒へし上は更に進んで大學の敎育を受くるの志を建てたり。父母は之に反對し兒女多き中にて且つ男の子も生れしことなれば唯一人の娘にのみ高等敎育を受けしむるの不可能なるを說きしもアリスは若し己れに大學の敎育を受くることを許されなば卒業後結婚することなく、弟をして大學を卒業せしめ他の妹にも夫れ夫れ好める敎育を授くる費用を負擔すべしとて切に乞ふて止まざりければ、父母も遂に其の精神に感じ十七才にしてウヰンゾル、アカデミイを卒業したる後は大學に入るを許すこととなれり。當時女子大學と稱するに足るものは至つて數少なく、男女共學の制を實行せる大學も亦稀なりしが、ミシガン大學のみは其の中にて最も有力なる者と聞えしかば、アリスは千八百七十三年父に伴はれ遙々と西に旅してミシガン大學に入學することとなれり。入學の頃には學業の資格稍々不充分なりしかど校長アンゲルと云へる人彼女と語りて其の才智あるを愛し特別に入學を許せしが元來記憶は好く敏捷なる性質なりしかば、日ならずして群を拔くに至りぬ。加ふるに其の性質寛大にして妬みの心少く同情厚く且つ快活なる氣立の人なりしかば年は同級の女生の中にて最も若かりしかど何時しか其の首領と推さるるの樣なりき。日曜日には二度禮拜に出席し日曜學校を敎へ其の外宗敎上の集會に出席することを勉めたり。學校に於ける彼の境遇は決して平坦なるものにあらざりき。兩親より送り來る金は費多き大學の學費を充たすこと難く且つ一家の生計も不慮の損失の爲に困難を加へ來りしかば、孝心深きアリスは斯くても尙ほ大學の勉學を繼續して兩親の重荷となるに忍びす、在學三年の後校長に乞ふて小學の敎師の地位を求めたるが、イリノイス洲のオタワと云へる所に聘せられて行くこととなれり。かく卒業せずして學校を去りしかど後時々機會を求めて學校に歸り五年の後Ph. D の學位を取れり。其の翌年ウヰスコンシン洲のゼネバ湖畔にあるゼネバ湖女學校に招かれて其處に轉じグリイキ語ラテン語など敎へたり。俸給は一年八百弗を受けしかど三百弗は妹エラの敎育費に送り其の外ステラと云へる妹の重き病にかかり遂に死せしことなどありて其の入費等少からずアリスも不自由勝の生活を續けたり。ゼネバ湖女學校に移りたる翌年又北ミシガン洲に在るサキナウと云へる女學校に移りて此處を監督することとなれり。此の時妹のエラは學校を卒業せしかば二人共に同じ學校に敎授して困める兩親をも其の地に招きて之を扶養し、又大學に入れる弟に學費を送るを得たり。此處に在ること二年にして彼の女は更にウエレスレー女子大學に招かるることとなれり。これ彼の女が最大なる活動を爲す舞臺なりしなり。

抑もウエレスレー女子大學は米國の女子大學中　錚々の名あ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る學校なるが、千八百七十五年の創立に係れり。創立者はヘンリイ、フオール、デウラントと云へる人なり。此の人は法曹家として成功したる人なるが有望なる男兒の死に逢ふて感ずる所あり、法曹の社會を退き幾年を公共慈善の爲に費すことに決し殊に女子敎育の急務なるを思ひ、ボストンの西十五哩なるウエレスレーと云へる土地に森あり小山あり湖水の眺ある己が所有地に女子大學を建設したり。又啻に創立者なるのみならず、實際上校長として萬般の事を統率し宗敎的の精神を以て基礎を据えたり。アリス、フリイマンが聘せられて此處に來りしは僅に二十四才の頃にして專ら歷史を敎授せしが其の後二年創立者デウラント死するに及び彼女は擧げられて副校長となれり。デウラントの生時より此の大學の校長はハワアド孃と云へる人なりしがデウラントはアリス、フリイマンの來りし年理事員の一人に向つて『君は彼の少さき黑眼勝の少女を見たまひしや、ウエレスレーの二代の校長たるべき人は彼女なり』と云ひし程ありて、名は副校長たれども實は校長の地位に進みしと同じかりき。これ彼女が二十七才の頃なりき。翌年は愈々校長の椅子に坐することとなり、千八百八十七年結婚して職を辭するに至るまで七年の間此の名譽の地位を占めたり。

校長として彼女が偉大なる創始力を發揮して創立者の精神を維持しつつ着々新面目を開きし次第は遺憾ながら之を記するを得ず。又彼女が如何なる感化を及ぼしたるかは後段に讓り先づ其生涯の履歷を語り終らしめよ。パアマア敎授との交情は同敎授がウエレスレーにて講演を爲せし頃に始まり次第に深く相識るに至り千八百八十七年結婚してハアバアト大學の所在なるケンブリッヂに家を成すに至れり。此の前後彼女も亦其の夫たるべき人も種々なる困難なる問題に接したり。彼女の如き社會に立つて大なる事業を爲しつつある婦人を單に一家の主婦となすは不當なることなりとは或る人々の間にありし感情にして、實際上ウエレスレー大學は此の人を失ふは大なる損失なりしかば種々絕ち難き情實ありしも無理ならず。されどパアマア博士はあまり健康ならざる彼女を永く繁劇極まる地位に置くの無情なるを感じ、又大學に於て彼女の爲し得べき經營は既に略ぼ形を成したれば今は後繼者に委ぬるも不可ならざるを見、妻としてアリス、フリイマンを迎ふる事を恐れざりき。かくて名聲赫々として米國の敎育界に轟きたるアリス、フリイマン校長は三十二歲にしてパアマア夫人となりぬ。夫人も亦頗る自然の事なるかの如く心安く境遇を變へたり。前半生の多忙なる煩勞多き生涯に引き代へて比較的安靜にして餘裕ある生活を送り、智識的の空氣の濃厚なるケンブリッヂの社會の一光彩となり或は夫妻相攜へて歐羅巴に旅行し或はボックスフオルド(ボストンの北二十五哩)にある別墅に退いて田舍の生活を樂みたり。かかる間にも彼女はマサチユセット洲の敎育會の評議員となり婦人內國傳道會社の社長となり其の外種々なる重大なる活動に與りて其の相談役となり又個人的の交際によりて大學の校長時代に遜らざる大なる感化を及ぼしたり。千九百二年パアマア博士休暇の年

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に於て偕に外遊を試みパリに滯在中圖らずも病にかかり客舍に於て世を去れり。齡四十七歲。

アリス、フリイマン、パアマアの生涯に於て最も著しく顯れたるは彼女の人格より發して他の人格に及びたる感化に在り。學問の才あり、讀書の嗜好深き人なりしも、書を著さず、演說の草稿の存するものも少く書きしものは唯數篇の詩、讃美歌と數知れぬ手紙あるのみ。其の活動は全く人の爲めに捧げられ其の興味は專ら人に向つて注がれたり、彼女は至つて單純にして近づき易く普通の事物と普通の人民に興味を有し何等深邃なる所ありと見えず又他人を自己の模型の內に鑄造せんとするの痕なかりき。然れども彼に接する人、彼女が其の冴えたる眼を注ぐ人は元氣付けられ、淸められ、新らしくせられて去らざるものなし。其の演說するや一種の磁石力ありて之を聽く者を魅する力あり。彼女のある所に每朝の禮拜に一種の生命あり。在らざる處寂寥あり、ウエレスレーの學窓にありし學生が聖書の或る節を讀み或る讃美歌を聽くときにアリス、フリイマンの音容を憶ひ起さざる者なしと云ふ。彼女の祈りは亦頗る力あるものにして其の聲は熱心と洞察力と己を忘るるに誠を以て鼓動せる如く聞かれたり　聖書に關する智識も豐富にして事に應じて引用自在なりければウエレスレー大學の女學生はフリイマン孃の持てる聖書は普通の聖書と異る如く感じ居れりと云ふ。これ如何なる場合にも適切なる語を其の中より引き出し得たればなり。然して彼女には一種犯しがたき威嚴も備はりたり。ウエレスレー大學の上級生の一人に每朝の禮拜に遲れ勝なる者ありけり。一日校長初め生徒一同着席して校長は讃美歌の番號を言はんとせるとき其の學生は戶を排して入り來れり。校長は眼を其の學生に注ぎて入り來りしより席に着くまでジツト見戍りしが其の生徒の席に着くを見るや、今讃美歌の何番を歌はんとて今の一字に力を入れて言へり。其より後其學生は時刻に後るること無かりしと云ふ。又或る一人の少女初めて學校に來り戀鄕の思に堪へ難くひとり庭樹の傍に立ちて悲しき思に沈み居りしが數人の人々打ち連れて語りながら行き過ぎたり。其の中の一人は年若く美しき婦人なるが、語りながら親切なる眼を留めて此方を見遣りたり。其の少女は新しき生命の流れ來る如く感じ、かかる人と偕に在りなば何處にても淋しからずと思へり。翌朝禮拜堂に行きけるに同じ婦人の坐し居るを見て何人なるやを問ひしに傍に在りし者彼人こそ校長なれと答へたり。其れより後戀鄕病は全く癒されたりと語れり。

此の如き驚くべき感化の源は何處に在るか其の大半は無意識の間に發露し來る力にして川の自から流るる如く花の自から香る如く其の人自から識らず、他人も亦之を說明し得ざる領分多きを占むることは疑ふべからず。彼女の夫たるパアマア敎授は云へり『ここに余の說明せんと欲せる深秘なる或物ありき。然かも余は之を說明する能はず。蓋し天才なるものは說明し得べからざるものならん。彌々之を詮索すれば彌々驚くべきものと見ゆ。十五年間偕に棲みしかどこの不思議なる機械の動力は余に示されざりき。彼女は依然として一個

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の驚異なりき。』然れども感化力の一半は勉めて之に達し學んて至るべきものなしとせず、彼女が初めて大學の副校長として擬せられしとき齡僅に二十六歲にして教授の中最も年少なりしかば他人も驚くべく彼女自身も意外に感じたるなり。普通の人ならば、先づ老成の先輩を訪ふて意見を聞くべきにフリイマン孃は己の室に歸るや先づ上級生一同を招きたり。然して今日副校長として推薦せられし旨を告げ、年少にして此の重任を受くるの容易ならざるを告げ、若し上級生なる諸君にして余を助けて此の重任を果さしむるの意あらば余は之を受くべきも、然らざる限りは到底之を諾し得ざるべしと語りしに、上級生一同は其の場に於て充分に校長を助くべき意志を表明して其の就職を請へり。此の一事は彼女をして多くの不利なる嫉妬と妨害より免れしめたり。又或時學生の間に怠惰なる風行はれ禮拜堂にて讃美歌を歌ふとき起たずして歌ふもの多かりき。一同フリイマン孃はユウモアを帶びたる調子にて『いざ我等起ちて第二十三番の歌(起てよいざ起て云々)を歌ふべし』と。此の後は一同起立して歌ひ其後復座して歌ふ者なきに至りしと云ふ。

此の如きことは寧ろ伎倆に屬すべきものなるが、或る人嘗つて彼女に問ふて云ふやう『君は我が知れる人の中にて最も伎倆ある人と思はるるが、如何にして此の如き伎倆を得べきや教へて給はれ』と。フリイマン孃は曰く自分にはとても斯かる伎倆あるにあらず、但ありたく思ひ又試みたることもあり。年若きとき學びたる一人の教師伎倆の必要を說き、之を得んとせば最も良き道は我等の接觸せる人の事に一層深く注意するに在りと云へり。他人とともに事を爲す際には我等が最善と知れる道を讓り、彼等の最も好む道を取らしめなば、反つて目的を達することを得べしと云へりとぞ。實にアリスフリイマンは四人の妹の姉として彼等を世話せし始より其の一生を通じて最も力を用ひたる所は思想に非ず、事業に非ず、人なり。人を善くし、人を幸福ならしめんとする是れ彼を動かしたる最大の動機にてありき。其の書きし手紙も盡く個人的の事に關し公にし得べきもの少しと云ふ。彼の伎倆は同情より發したるものにてありき。ボックスフォルド(パアマア氏の別墅の在る所)に一人の貧しき婦人ありけるが、一日門に立ちて夫の歸りを待てり。パアマア夫人其處を過りて常の如く歩みを停めて語りしが、其の婦人は夕飯のスウプを煮かけありて農夫が蕪菁を持ち來るを待ちつつある所なりと語れり、パアマア夫人は別れて去りしが程なく手に蕪菁を携へて歸り來り、スウプを完成するを得しめたりと云ふ。同情は啻に伎倆の秘密にてあるのみならず、又智慧の秘密なり。夏のことなりき、新たに結婚したる婦人ボックスフォルドに來れり。夫人は之を音づれて種々結婚式の樣子等尋ね、又新たに造りたる衣裳を見せて給はれとて、彼是と衣裳の美はしきを喜び見たりしが、見了りて扨て云ふやう『此の土地に在る中度々は之を着けぬ樣にせられよ、田舍にては質素なる着物ならではあまり他の人との間に隔てを生ずる恐あり』と云へり。又面白く思はるる一つの話あり。夏休みの中ボストンの貧民窟に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て每朝開かる學校ありて、貧兒に讀書音樂等敎ふるの計畫なり。パアア夫人も每週一度避暑地よりボストンに來り貧兒を敎ふるを樂みたるが、或日『今朝は何の事を語るべきか』と一室に群れ居る兒童に問ひしに、一人の少女は『生命のことの就て敎へて給はれ』と云ふ。夫人は『其はあまり大なる題目なり、他に何か聽きたきこと無きや』と問ひしに、膝の上に大なる嬰兒を抱きたる少さく色蒼ざめし小兒は『如何にせば幸福にあるべきかを語りて給はれ』と云ふ。夫人の眼には淚ありき。『好し然らば幸福なる道を卿等に敎ふべし、之に就きて三つの規則あり、一週間の間此の規則を守り一日も怠らぬ樣約束すれば之を語らん』と云ひしに、皆聲を揃へて約束せり。『然らば』とてパアマア夫人は三つの規則を語れり。第一は日々何等かの善き事、即ち聖書の一句にても又詩の一行にても暗記すること、第二、日々何等かの美しき物を見出すこと、第三、人の爲に每日何事か爲すこと、是なりき。次の週間に小兒等の爲せし報告こそ面白けれ。第二の美はしき物を見出すべしとの答として或る者は、雨垂れにて浴する雀なりと答へ、或者は嬰兒の髮こそ美はしきものなりと答へたるなど詩的なりと云ふべし。

久しく家庭を離れて學校の食堂にて食事せし彼女は家庭の主人となりて後は好個の妻君なりき。彼女は美味きパンを燒けり。料理に巧なりき。帽子衣類等新しく注文すること稀にして、良き地を撰び親から手を下して幾度か造り更へ、己の趣味に合ふものとなすを誇れり。『敎育てふものは前にせざりしことを爲し得さしむることとなり』と云へり。下婢に對しては別けて親切なりき。或者は十年も繼續して召使はれたり。其外夫人はケンブリッヂに於ける良き社會、得難き交友を尊重する念深かりき。然ればシカゴ大學創設せられしとき、ハアパア總長はパアマア敎授夫婦を聘せんとして懇切を極め、俸給の如きも三倍の增加あり得べき筈なりしも、パアマア夫人は舊き關係より離るるを好まず、切に夫に勸めて之を辭することとし、ただハアパア博士の懇請を無にせざらん爲に三學年の間時を限つてシカゴに行き婦人部の經營の爲に助力することを諾したり。

終りに彼女の信仰上の事に就て云ふ所なかるべからず。彼女は平生の談話の際宗敎上の事に就て語ること少かりき。まして論ずることは更に稀なりき。然れども人の爲に盡し、人を救ひ、人を幸にするを以て最も大なる事業とせし主基督の精神は日常の生活を支配せり。彼女の生涯は始より悲哀煩勞の多き生涯にてありき。兩親弟妹の爲に重荷を負へり。其の手紙を見れば悲みと疲を訴ふるの情惻々として人に觸るるものあり。大學校長たる數年の間別けても年若き身に山の如き重任を負擔したることとなれば、一方ならざる勇氣を要したり。然して彼女は母系より肺病の傾向を遺傳し、妹の一人は之が爲に斃れし事なれば、世に在る日長からずとの感じは常に胸中に伏在して彼女を親切に又嚴肅ならしめたりき。其の信仰は自から力の源にして慈愛の保護者なる神に依るの情となつて表れざるを得ず。聖晩餐の讚美歌として作りし歌に曰く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「我が神よ汝と偕にある處、
如何に美はしく靜なるよ。
汝の天の秘密、汝の恩惠の
我に觸るをばこゝに待つ。

親しき主よあこがるゝ、
我が心を充たす汝の道ぞさま〳〵なる。
汝の愛らしき世界あり、汝の語り給ひし言あり。
汝の美はしき聖意を爲し、

汝の小兒等に活ける麵包を與へ。
かよわき者を導きつ、
懷かしき手を頭に置かれ、
去りにし人を偲ぶなど。

親しき君よ導きたまふ道異なれど、
何れも君の道にこそあれ。
次の聖餐の日來るまで。
願くは我が地を天となさしめよ。

實にこれ餘地ある宗教なり、健にして感深き心靈に宿れる信仰なり。一篇の美はしき傳記讀み來りて尊敬と同情の念ともに動き、眼前に殘るは、成功せる女子大學の校長にあらずして人生の眞味に觸れ基督の精神に養はれたる氣品ある女性の姿なり。その傳記を包める芳芬は神の御園に育ちたる花の香りなるを感ぜざる人あらざるべし。

講壇

神の準備

（創世記二二の八―一四）

大谷虎

アブラハムは年老いて後一子を與へられまして掌上の玉と愛み育てゝ居りました。然るに彼が唯一の望であつた此子を燔祭として献げよとの神の命令がありました。彼はどうした神の聖慮かと思ひ惑ふたのでありましやうが神の聖旨ならば己が生命も物かはと豫ねて覺悟したることなれば、些しも躊躇らはずして神の命ずるまゝに一子イサクを連れて神の指示したまふたところへ進み行きました。三日路を經てモリヤ山の麓に達しました。こゝは燔祭の場處として神が示したところである。アブラハムは其の從僕をこゝに止めまして、イサクに薪を負はせ刀と火を執つて山に上りました。途中でイサクは燔祭の羔の無いことを不審に思ひて、火と薪はあれども羔の無いのをどうなさるかと尋ねた。現在の親が自分を手にかけて犧牲に献げやうとは夢にも思はなかつたのである。この從順な無邪氣な愛らしき我子を殺さねばならぬつらい役目が刻一刻目の前に迫つて來るのを思ふアブラハムの胸中どうでありましたろうか。察するに餘あることであります。されど彼は心強くも自

から情を抑へまして、さあらぬ態にて神が羔を備へられやうぞと答へました。アブラハムは一時の氣休にこんなことを言はれたのであらうか、將た彼が信賴の心より、よしや霧の中に船を行るやうに幾分か心許なき思はあつたにしても、恩惠深き神のなにとてむざ〱と此子を殺させたまふことのあるべき、必ずや不思議なる攝理もて此場合を救ひたまふべしとの一種の望ありて、さてこそ斯くは答へたのであろふか。我等はアブラハムが一時の氣休で言つたのではなくて、信仰と希望とを以て斯く言つたに相違ないと思ふのである。

かくてアブラハムは神の示したまへる所に到り、壇を築き薪を列べ、イサクを縛りて壇上なる薪の上に置き、刀を擧げて將に斬らんとしましたときに、天より童子に刄を觸るゝ勿れとの聲が聞へた。彼は驚いて後を顧みまするに一匹の牡羊が木叢に角を絡まれて居りました。神は彼が竊かに其心に望んで居りましたやうに果して準備をして置かれました。前の覺束なき望は茲に至つて動かすべからざる確信となりました。彼は感慨の念に堪へず長く神の恩惠を紀念せんために其地をエホバエレと名づけました。エホバエレとはエホバ備へたまはんとの義であります。かくてエホバ山に備へたまはんとの諺が出來ました。

神の準備！これほど我等の心に何とも言ひ難い慰藉を與ゆる言葉は無いのである。どんな悲境どんな窮境に陷つても神の準備の豊なるを思はゞ決して力を落すことはないのである。蓋し信仰の生活とは神の備へたまふ所に信賴し、心を開いて之を受け容るゝことである。神は人間の肉のためにも又靈のためにも其備ふる所頗る富贍であつて又周密である。かく言へば世を墓なむ厭世者流は昔から少なくないのに、此世を御馳走の支度でもして待つて居る處の樣に考へるのは夢を見て居るではないかと疑ふ人もあろふが、それは信賴の心のないためである。信賴の心が無ければ所謂疑心暗鬼で、己が心柄で祝福をも咒咀に變へてしまふのである。私は或富家の娘さんを知つて居る。どふした譯か其人は母親になつかぬ。母親は其子に對して慈愛がないのではない。娘が自分の愛を疑ふて親子の情愛の薄いのを氣の毒に思ふて、どうかして自分の胸の中を知らせたいとつとめる。けれども其疑が餘程根深く這入つて居るので、何事も逆に見てどうしても順に受けぬ。善くしてやればやる程惡く取ると云ふ有樣であつて其人は富貴の家に生れながら心は最も貧しい有樣に居る。貧乏人の子よりも貧しい有樣である。固より美衣を纏ひ美食を取ることは貧乏人の子の及ぶ所でないが、愛情の缺乏は貧乏人の子女よりも遙かに甚しいのである。斯る有樣にある人は此上もない氣の毒な人と言はねばならぬ。子も氣の毒親も氣の毒であるが、どふして斯なつたかと言へば、色々事情はあろふが畢竟は親の心子知らずである。親に對する信賴の心を缺いたためである。丁度それと同じ樣であつて神に對する信賴の心がなくては、神の準備も其用をなさぬのである。此材料も豊富な機會も多い天地に生れて、我と我が天地を狹くし怨みつ喞ちつ味氣なく世を送る人の少なからぬは如何にも殘念

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

なことゝ言はねばならぬ。

神は一般人類のために豐かに備へたまふばかりでなく特に一人々々のために準備したまふのである。基督は天の父が我等の頭髪をも數へて知たりまふことを教示せられた。神が一人々々のためにどの様に細かく心を用ひらるゝかを示されたものである。されば我等に取つてつらいと思ふことも善く之を味つて見るとなか〳〵に添ない神の恩惠が籠つて居るのである。エゼキエル書を見るに次の幻象が記してある。「時に我見るに我方に伸たる手ありて其中に巻物あり。われ之をわが前に開けり。巻物は裏と表とに文字ありて上に嗟嘆と悲哀と憂患とを記せり。彼また我に言たまひけるは人の子よ汝得るところのものを食へと……我すなはち之を食ふにそのわが口に甘きこと蜜の如くなりき。」嗟嘆と悲哀と憂患が蜜の如く甘いとは甚だ人情に遠いやうであるが、神を信ずるものには眞實に密より甘いのである。之によつて尚一段と神の恩惠を信ずるに至るのである。私が關西の或地に居つた時其地の或物持の奥さんて重い病氣に罹つた人があつた。一時は一命も危うき有様であつたが、幸にして段々善くなつて來た。或日私が其人を病床に訪ねましたところが、其人が突然に私は見つけましたよと言ふのです。私は全體何を見つけましたかと問ひますと、其人が申しまするに、私は友達の少ないものでして、本統に私のことを思つて下さる人は三人か四人か位のものと思つて居ました。然るところ此度重き病に罹りまして死ぬるか生きるかと云ふ騷をしましたが、私を訪ひ音づれていたわり勵まして下さる方や、情の籠つた手紙をよこされて私を慰めて下さる方が澤山ありました。そこで私がそれは誠に得難い寶を見つけられたが、もつと尊いものを見つけて居らるゝではないか。人の心にそんなやさしい友情を植ゑつけられた神の情を今更の様に新に感じはせなかつたと申しまするとその人はほろ〳〵涙を流しまして實にそうです私は天父の顏を見ましたと答へた。神が人を教育して石の如き頑なる心を打ち碎いて肉の如き柔なしほらしい心を與へるやうに、様々な手順用意をして置かるゝのである。神は我等を耐忍ぶ能はざる試錬に遭せたまふとはない。必ずそれに添へて逃るべき道を備へたまふのである(哥前五の十三)神は我等の力を測つて相應した試錬を與へたまふ。そして窮して通じ、死中に活を見出す道が乾度備へてある。我等は困難苦痛に陷つたとき善く心を落ち付けて神の聖旨を思ひ忍耐して己が道を盡して居つたならば、大なる恩惠を得る機會が備へられて居ることを見出すに至るのである。

神の準備は救を以て其中心とするのである。神の準備は耶蘇基督の十字架上の犠牲に於て其絶頂に達したのである。我等が救はるゝは難行苦行によるのではない。若し自分の修行によつて神の子とならなければならぬ譯であるならば、我等は唯失望あるのみである。然るに我等の爲し能はざる所を神は爲したまふた。神は我等の爲めに犠牲を準備したまふたのである。我等は己が救の爲めに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

何をも爲し能はないのであつて、唯神の備へたまふ所に依りたのむの外はないのである。全き依賴に我等の救があるのである。ルーテルが修道院にあつて神の前に己を淸うせんとつとめた時は、其手を洗へば洗ふほど其汚を感ずると或人が言つたやうに、彼は己が罪を思ふて日夜唯悲嘆に暮れて居つたのである。然るに羅馬より歸る途上信仰によつて義とせらるゝと云ふ眞理が彼の心に破れ込んだとき、宿昔の疑雲忽ち霽れて、神の御國の門左右にサット開いて光榮ある神の寶座も見え渡るやうな心地がしたと云ふことである。此實に愉快なる經驗は絕對的信賴と云ふことにある。心を開いて其備へたまふところを受け容るゝと云ふことにある。我等のために救を備へんがために其獨子をも惜しみたまはざりし神の恩惠は、げに讃嘆に餘ありと謂はねばならぬ。

静思の友

神意何くにかある

我等は志を立て事を行はんとするに臨み、久しく思ひ惱みて容易に決し難ぬること少なからず。また取り懸りたる事業の兎角面白からず、是れ果して我が使命なるべきかと疑ふに至ることあり。神は我に何を望み、我によりて何を企てんとせらるゝか。神の聖旨果して何くにかある。斯る人生の危機に臨みて、我等に力を與へ、志を緊と引き締め、大いに進んで事を爲すを得るに至らしむるものは聖書なり。倫敦の有名なる牧師マイエル氏の實驗談を讀みて、我等もまた思ひ當る節なきにあらず。曰く、

『余は少年の頃より、傳道者たらんと欲したれど、或は公の席に於て語るに適せざらん事を氣遣ひ、之を決するに苦しみたり。十六歲に及びて尙ほ決せず、斷えず之がために煩悶し泣き叫びて、聖旨の在る所を示し、且つ說敎者たるに適すとの實證を與へられん事を求めたり。ロンドンに近きストリイサムの家に於て食堂の椅子に坐し、開きて讀みしは耶利米亞記第一章七節にして、是れ余が曾て讀みしことなき所なり。是れ實に余の疑問に對する神の答なりしなり。然り余はエレミヤの所謂幼童にてありき。神の遣はさんとする所に行き、其の命ぜし所を語るべき筈なり。然かせば主常に我と共にありて手を我が唇に着くることならん。又曾つて親友を訪はんとてチエスタアとランダッドとの間なる汽車に乘りて、レエスターより旅行したる折の事なり。是れより一年前より余は每朝監獄の門前に立ちて、出獄者を迎へ、彼等と朝餐を共にし、其の將來の方針を定むることにつき相談相手となりたり。余は出獄者を一所に住ましめ、自ら働らきて衣食すると同時に基督敎の感化を受けしむるを得べき勞働會を設るの必要を感じ居たり。之がため余は既に薪割の業を始め居たれど、更に手廣なる家屋を得ざる可らざる次第となれり。折しも庭園小屋及び

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

住居の明きたるを見出せり。家賃年に千圓なるが上に之を修繕するの費用も少からず。約束の期限は三年なりとのことなり、余は之を決するに躊躇せり。神もし吾が爲さんとする所を嘉みし給はゞ、必ず無くて適はざるものを與ふるならんと信じたれば、他人の力を借ることを好まざりき。神は余に何を望み、又た余に依りて何を企てんとし給ふか。余は心を虚うして、神の御意を知らんと務めたり。而して聖書を開きて讀みしは、馬太傳第十四章の七節なり「ペテロ答へて云ひけるは、主よ若し汝ならば、我に命じ水を履みて爾の所に自らしめよ」主言ひ給ひけるは、「來れ」と。是れ余の心を悩ませ居る此の困難と責任の中に耶蘇自ら立ち、余が聖旨は如何にと問ふに對して「來れ」と答へられしものと感ぜられたり。

　リビングストン曾て亞非利加にありて一群の土人に其の去向を塞がれ如何ともなし難く覺え、己が天幕に入りて聖書の中に讀みし語は、エホバは汝を離れず、又汝を棄て給はじと言へる語にてありき。彼は之を讀み大に感じて曰く、余は完全なる紳士の言語を重ずる如く、天父の言語を重じ、其の必ず余をして此の危難を無事に經過せしめ給ふべしと信ずることを得と。斯くて次の朝となりしに反對はいつしか消え失せて途中何の障もなく彼は其の行くべき所に達することを得たりとかや。余が事も宛ながらリビングストンと同樣に思はれたり。余は彼の家屋を借り受け三年間薪商賣を營みて、多くの反對を切り抜けることを得たり。終に三年の期も果て、ロンドンに移りし時は、一錢の損失をも蒙らざりき。然かのみならず、萬金にも換へ難き經驗を得、二十人餘りの人を救ひ得たりてふ記憶とを遺せり。此ら二十人の中には今日まで余と親密なるものも少なからず』。(T・S・)

死の兩側面

人生は大いなる教育なり。其の教育は五十年七十年の短かき年月もて到底完成せらるべきものにあらず。基督信者は神の永遠の教育を信ず。教育家の泰斗ペスタロッチ死期に臨み看護せる人々を顧みて曰く『余は將に眞理の書を讀むべき身とならんとす。余は敵を赦したれば彼等心を安んじて可なり。余も今や永遠の平和に入らんとするなり。余は著述を完成せん爲めに六週の餘命を與へられなば幸なりと思へど、倘ほ此地上の生活より余を取り去らるゝことを神に感謝す。云々』と。是れ死に對する一面の見方なり。此世に於ては如何に勉むるも未だ十分に讀み盡す能はざる眞理あり、明かに了解するを得ざる疑問多し。死は人間の教育の一段落に過ぎず。之によりて一層高尚なる階級に進み、より深く、より高き智識を啓發せらるゝなり。其の智識の開展するとともに、其の使命を成就し、神に事ふるにも遺憾なきを得るに至るべし。是れ基督信者の來世に對する希望なり。

　有名なる説教者ヘンリイ、ワアド、ビイチャア死に近づきし時、友人の問ひに答へて『神知りたまふ。余は今天の家に

歸らんとするを欣ぶ。余は長く此の世の生活を送り、事業は概ね之を爲し遂げたり。余は此の世を樂しみ、生活を樂しみ又事業を樂しみたり。げに余はすべて之を樂しみたり」と云へることあり。彼は樂天的に人生を觀じ、常に神の限りなき恩恵を感謝せり。されば死は宛がら平和と歡喜と慈愛とに滿ちたる吾家に歸るが如き心地せるなり。是れまた死に對する一面の觀察なり。罪の勢力に壓迫されて靈性思ふ儘に發達し難く、疾痛慘怛とかく浪風荒きは此の世なり。されば、ピイチヤアの如く樂天的に生活する能ざりしものも、死によりて實に斯る境涯を脱却して、自由の天地に入り、天の父の家庭に歸り、其の限りなき慈愛と注意とを喜び、世々の聖徒の交りを樂しみ、すべての疲れを癒され、悲しみの涙を拭はれ、云ひ難き休息を覺ゆるを得べきなり。久しく異郷に辛酸を嘗め、身も心も瘠せ衰へたるものが、吾家に歸りて氣も伸々し見るまに血色美しく、肉付くに至るが如く、我等も天父の家に歸らん曉には罪の壓迫を脱して靈性頓みに開發せらるに至るべきを信ぜんと欲す。（T.S.）

死てふものなし。
かく見ゆるは變化なり。
朽つべき此世の生命は、
生命の樂園の外.廓に過ぎず。
其の通路を死といふ。（ロングフエロオ）

説　苑

一二

ブラウニングの詩「アンドレヤ、デル、サルトオ」につきて

ミス、マクドナルド

アンドレヤ、デル、サルトオは第十六世紀初期の以太利の畫家であつて、有名なるラフアエルと時を同じくして出た。彼は無疵の畫家と稱せられたが、此の評判は彼の天才のたゞ一面にのみ適用することができる。専門に係ての立場を見ると成ほど彼は無疵と見ることもできる、線や陰影や彩色は如何にも優美であつて、不朽の名あるラフアエルでさへも彼に比ぶれば疵があると思はれる。彼の筆に成つた聖母は其の形體の美に於て完全である、山の形なども技巧の點から云へば非常なものである。それに係らず世界はアンドレヤ、デル、サルトオに許すに第一流の畫家たる地位を以てしない。もとよりアンドレアはラフアエルの聖母を批評し又實際之に改善を加へるとはできる、しかし其の間に此技巧以上の標準に照して批評すればラフアエルは遙に自身に勝つて居ることを許さねばならなかつた。それは外でない。靈的表情の標準によつて然るのである。ブラウニングは其の詩中に云つて居る

實にこの腕のつけ方は惡しし、こゝにチヨオクを用ひん

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

か、忍びぬことなれど、見るものは君のみなれば、なすべきか。あゝ唯魂を如何にせん。彼はラファエルなり、乞ふチョオクを消せ。

アンドレアのやうな偉大なる天才を稟けた人でありながら何故藝術の最高の表情である靈的表情に於て失敗したのであるか。ブラウニングの詩はこの不成功を説明しやうと試みたものである。

眞理と生活につきて懐抱せる高尚なる觀念を詩に現すに於て英國の詩人のうちブラウニングに及ぶものがないのであらう。題目は何んな題目であるにせよブラウニングは人類に傳ふべき使命、高尚にして人を刺戟する力があり又樂觀的な使命を帶びて居る。ことに、彼は成功とは何を意味するかと云ふことにつきて獨特の見解を抱いて居る。『アンドレヤ、デル、サルトォ』の一篇に於て彼はアンドレヤの成功の秘密を説明しやうと試た。美術に於てアンドレヤが失敗した原因は彼が人生に於て失敗した處に存する。人は己の衷にある思想や向上心の外表すことはできざるものである。形體の美を描くにかけては完全とも云はれた人でも、心のうちなる靈的なるものを養はないならば靈的の美を描くことができなかつた。今一つ失敗の原因と見るべきものは現在に滿足することである。人は如何に高い處に達したにしても、自己以上に立つて居る或る物を取らんとして努力しないならば矢張失敗であるを免れぬ。ブラウニングは曰く

人の手を延ばす所は捉へ得るものよりも遠かるべし、
然らずば天は何の爲の天なるぞ。

此の詩はモノロオグの體を用ひ、アンドレヤが其の妻に語りつゝある言として表はしてある。彼は己の一生を點検して自身が最高なるものに達し得なかつた失敗を認め、その原因は彼の裡に眞の向上心を缺いて居ること、何物を犠牲にしても最高なるものに到達しやうと云ふ精神に乏しいことにあることに歸して居る。其の妻は形體に於ては美の理想であるほどの美人ではあるが、全く品性のない美人であつて、夫の品性を高くしその藝術を眞にするためには何等の益を與へなかつた。實を云ふとアンドレアは己の失敗を認た後でさへ成功に達する代價を拂ふとしない。されば彼はラファエルの名高い聖母の技巧を批評した後に左の如く云つて居る。

五年前に世を去りたるウルビノ生れの名高き青年の手に成りし作彼處に在り。我れは彼れが之を畫きし樣如何なりしかを想ひ遣り得るなり。帝王も法皇も之を見よとて心魂を注ぎてみつゝ藝術を透過して其れ以上なるものに達するまで天に充たさるものとなりけん。彼の腕の着け方悪し、線の引き方にも誤あり。されどこは其の體なれば恕されん、精神は正し、心の向ふ所は正し、此は幼兒にても解し得るなり。彼れの腕は何たる腕ぞや、我之れを改め得べし、さりながら彼の如き潑剌と洞見と主張とは、我より去れり、我より去れり。何が故に然るか。君もし我に此等のものを付與し得るならば、我に魂を入れ得るならば、我等もラファエルの達せし處に達するを得しな

らん。

かく彼の缺點を認めながら猶ほ自ら在る處に在るを甘ずと云ふを以て此の詩は終る。これ即ちブラウニングの人生哲學である。偉大なるものに志して然かも之に達すること能はず、空しく平凡なる事を成就して滿足す、かくても猶志なきにはまさる。人生は功業によりてよりも向上心によりて批判せらるべきものである。

此の卑き人は小き事を爲さんことを求め、之を見、之を成せり。彼の高き人は大なる物を追ひ求め、之を知らぬ前に死す。

人は向上し、生長し、進歩すべく造られた。生長は人間の特長にして、生長しやめたる人は、眞の意味に於ては生活しやめたるものなるも彼が生長しつゝある間、煩悶するも可なり。この教理を信じ得る人は危險に對して大膽にあり得べく、悲哀の間に喜ぶことを得べく、如何なる時にも眞實にあり得る。眞の人に取りては人生は精神の力をためし人を造り出だす機會である。

我等まことに生くるならば亦まことに見ることを得ん。人若し神とともに住むならば其人の聲は小河の低語の如く桼の葉のおとづるゝ如く美しからん。「エモルソン」

實傳

『我が住む世界』（下）

ヘレン、ケラアの實驗談

▲匂ひばかり快きはあらず　ケラアは更に嗅覺が彼の天地に於ける甚だ貴重なる賜ものなるを説いて居る。曰く「私の實驗に於ては嗅覺は最も大切なものです。私は世人が此の感覺の貴重なることを等閑に附し、輕視して居ることを見る。神は常に美しき香物を其の前に燃さしめたと錄してある。私は覗ることによりて生ずる總ての感覺も、匂ひ、即ち日光に暖められ、風に動かさるゝ木の枝、若くは寄せては返へす波のうねく、其うちから見えざる美しきものを廣き世界に滿たす匂ひに優りて快きものがあらうかと疑ふ。宇宙から吹き寄する一陣の微風は私共をして未だ曾て見ざる世界を夢ましめ、また往にし日の最も懐き經驗を思ひ起さしめる。私は雛菊の匂ひを嗅ぐときに、新しき言や、物の名など學びつゝ先生と一緒に野邊を逍遙した愉快な朝に思ひを馳せないことはない。匂ひは千里の遠きを隔てたる所、また往にし昔に私共を運び行く力ある魔術師です。果物の匂ひは私をして南方の故里、桃林のうちに樂しく遊んだ幼き時代に浮動せしめる。其の他の匂ひは立どころに或は樂しき思ひ出の種となり、また悲しき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

記憶を喚び起す。私は匂ひのことを考へて來る毎に、私の鼻のうちには過ぎ去りし夏、實のり好き穀物の畠の匂ひが一杯になるのが常です。』

▲匂ひによりて暴風を知る　『私は匂ひによりて、未だ何らの兆候も現はれない先きに暴風雨の來ることを知ることが出來る。私は先づ豫報とも云ふべき動悸を感じ、微かな震を生じ、注意が鼻穴に集つて來る。愈よ暴風雨が近づくときには、鼻穴が十分擴つて土の匂ひの量が增し擴ることを好く感じ、かくて遂に雨が私の頰にぽつり／＼と降りかゝるに至るのである。そして暴風雨が止んで、次第に遙かに消え去ると共に其の匂ひも消え、次第／＼に匂ひの力が減じ、空間の防波堤から消え去つて了う。』

▲匂ひによりて本質を知る　『匂ひは觸れたり、味づたりするよりも更に多くの理想を與へる。即ち恐らく世の人が視たり聽いたりするやうな智識を與へる。接觸は只だその表面に觸れるに止まるから、其の觸れた物體を確かめるだけのやうに見える。嗅覺は浮彫のやうな觀念ではない。匂ひは嗅いだ物體を確かめるのでなく、其の本質を覺らしめるやうに見える。私は遠くから樹の匂を嗅ぐときに恰かも人間がこれに接觸せずに只だ之を見るときの心持を會得することが出來る。私は匂ひによりて木を內容のない薄い板と考へることが出來てから、人間が浮彫のやうなものでない物の形を網膜に映ぜしむる事實を不思議とは思はぬやうになつた。匂ひは物其のものについては何等の暗示をも與へぬ。そこて人間が色とか光線とか音響とかによつて物を判斷する如く、私は物には常に隨伴して居るところの距離とか位置とか動作とか周圍とかによつて之を判斷することを學ばねばならぬ。』

▲諸感覺の比較　彼女は更に嗅覺について語り、數日間此の感覺を失ふ場合には、宛がら俄かに失明して日の光も、星も、天體も見ることが出來なくなつたやうな心持がするといつて居る『然かし假令嗅覺が一時無くなつても心的作用には然ほど影響を蒙らず、世界に對する觀察も別に差支へない。そこて人間は目が見えなくなつても耳が聞えなくなつても智力の發達は妨げられるものでないと云ふことを確めたと云つて居る。かくて彼は人間の感官の比較をして居る。曰く『諸の感官の類別をすれば、嗅覺は耳よりも稍下等である。觸覺は目よりも遙かに上位を占めて居る。偉大なる美術家や哲學者は私の此の意見に一致して居る。チデロオは

「余が諸官能に對する觀察は下の如し。目は最も皮相的なり。耳は最も尊大なり。嗅覺は最も放逸なり。味覺は最も迷信的にして反覆常なし　觸覺は最も深遠にして最も哲學的なり」

といつて居る。』

▲夜は不思議を以て充つ　『詩人は如何にも不思議なるは夜であると云つて居るが、盲人の夜もまた不思議で充ちて居る。只だ光なき暗黑は、無知と無感覺との夜ばかりです。私共盲者も目明きも其の感覺に於ては違ふところはない。然かし之を用ゆるの如何と、感覺を越えて智識を求むる想像と勇氣の

有無とによりて異るのである。』

▲約束の地　『盲目の不幸は限りなく、また償ふ可らざるものです。然かし其の爲めに奉仕、友情、滑稽、想像、智慧などがなくなる譯ではない。人間の運命を支配するところのものは隱れたる內部の意志である。私共は善ならうと望むことも、愛し愛せられやうと願ふことも、また賢くならうとの目的について考へることも出來る。私共は皆な等しく神の子たる靈の力を有して居る。其れ故に私共はまたシナイ山の雷光を見、雷を聞く。また私共に取りて幸ひであるべき荒野や淋しき地を進み行く。かく私共が進み行くときに神は荒野にも薔薇の如き花を咲かせたまふのです。遂に私共は精神上の寳の藏めてある、見えざる生命と自然の永遠に變らざる約束の地に達するのである。』

▲歷史は想像の記錄なり　『世界の智識の大部分は想像によりて構成せられたものである。歷史も想像の記錄に過ぎぬ。即ち地上では已に見ることの出來ない文明を私共に見せしめるものである。近世の科學に於て最も著しき發見の或るものは、明白なる智識もなく、また其の信仰を確實に證明するものもなかつたけれど、只だ一片の想像から遂に此に至つたことてある。望遠鏡の進步によりて益々天文學が發達することがなかつたなれば、誰も望遠鏡の價値を認めなかつたであらう。如何なる大發見にしても、其れが事實となる前久しい間發見者の心のうちに宿つて居なかつたものはなからう。』

▲心中の二つの光　『私は星の輪廓や月の光に觸れることが出來ない。然かし私は神が私の心に二つの光を與へたまふことを信ずる。晝のは大きく、夜のは小さい。此らによつて私は宛かも北極星を賴りて航海すれば安全に港に達する如く私の生涯の航路を進めることが出來ると思ふ。恐らく私の太陽は諸君の見らるゝ太陽の如く輝かないでせう。私の世界を彩る色、空の碧色、野邊の綠色は、諸君の喜ばるゝものと同じでないかも知れない。然かし此等は私に取つて少しも色がない譯ではない。太陽は私の肉眼には輝かない。雷光の閃きも見えず、木々は春になりて新しき綠を飾らない。然かし其れでも決して存在が止まつたのではない。諸君が背後を向かれたとき美しい景色が見え無くなつたと同じやうなものです。』

▲靈魂の曙光　ケラアは敎師に就いて學ぶまでは我といふ觀念もなく、世界も世界でなく、何事も意識して居なかつた。それで何う爲やうとか、何う爲ねばならぬとかいふことも考へず・意志も智力もなかつたといつて居る。只だ或る盲目的の自然の刺戟に從つて動作して居たのである。其の頃でも怒り、滿足、慾望を感ずる心的作用はあつた。然かし過去もなく、現在もなく、將來もなく、希望も豫想もなく、驚嘆も喜悅も信仰もなかつた。隨つて神とか靈魂の不滅とか、死の恐れとか云ふ觀念もなかつたのである。敎育の光が斯る夜の暗黑を破つて彼女の心は頓に新しき天地に入つた。其有樣を說いて曰く『私は思想力を有つて居なかつたから、他の心的狀態と比較することは出來ない。故に先生が私を敎育し初めたとき、私の腦に如何なる變化と經過とがあつたか意識して居ら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ。私は只だ敎へられた指の作用によりて自分の欲することが、一層容易く得らるゝやうになつたことが非常に嬉しかつたのみである。……私はとか私にとかいふ意味を敎はり始め、我といふ或るものが有ることを知つたときに、私は始めて考へることをし出した。其ときに意識が出來た。斯の如く私に智識を與へたものは觸覺ではなかつた。先づ私の感官に價値を與へ、對象の名や性質や所有物などを認識し得るやうにしたものは、靈魂の覺醒であつた。思想は私をして愛、喜悦等すべての感情を意識せしめた。私は知ること、次ぎに理解すること、而して後に知り且つ理解したことを默想することに熱心になつた。すると以前私の感情を左右して居た盲目的刺激は永遠に消えて了つた。』

▲氣焰萬丈　彼女は『盲者の心的視覺力は限りあるものでない。私の智識的水平線は無限に廣い。宇宙の周圍は圖る可らざるものである』とて、薄弱な感官の狹隘なる範圍のうちに閉ぢ籠るの愚を笑つて居る。此の邊の氣焰は實に當る可らざるものがある。

▲實在は我が心に映ず　『古への哲學者は今日でも尙ほ確實と思はるゝ論證を擧げて居る。目明きにも目盲にも等しく、私共が眞實と知るところのものを眞とし、秩序あるものに秩序を與へ、覺知し得るものに觸れ得しめる絕對者が存在するといつて居る。若し之を許せば、此の絕對者は不完全な、不十分な、部分的のものでないこととなる。是は私共の感覺の限りある證據を超えて進まねばならず、また見えざるものに光を與へ、音の聞えぬものに音樂を感ぜしめねばならぬ。斯の如く理性其のものは私共が智的秩序、美及び調和の世界のうちにあることを知らしめる。此等の本體は必然之に反對する害惡、不秩序、不調和などを排斥する。斯の如く哲學の所謂眞實の世界なる非物質的理性には聾と盲とは存在せず、只だ是等は朽ち果つべき物質的感覺とともに放逐せらるべきものである。實在は私の心に映ずる。目に見ゆる物は其の象徵に過ぎぬ。私は室内を彼方此方に步むときに、私の精神は鷲の翼に乘つて天空高く飛び、衰へざる視力もて永遠の美の世界を眺め渡して居るのである。』

▲暗黑の歌　『我が住む世界』の卷末に「暗黑の歌」と題する詩が揭げてある。其の一節に

『我は夜の寂寥を步みぬ。
我が靈は喜び躍る。
夜よ、靜にして薰しき夜よ、
廣く大いなる夜よ、我汝を愛す。
泰然として榮光に輝く夜よ。
我は手もて汝に觸る。
我は汝の力に倚る。
我は慰めらる。
眞實にして、測るべからざる夜よ。
汝は我が安息なき靈魂の慰安なり。
我は汝の胸に樂しく宿らん。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

暗く、然かも憐み深き母よ。
鳩の如く我は汝の胸に憩はん。
我らは未だ測られず又考ふ可ざる暗黒の裡より來れり。
また少時にして應へなき洪大なる暗黒のうちに歸らん。」
（志良爲生）

聖書の研究

聖書研究の必要

秋涼の氣天地に流れ入り燈火親むべきの時となれり。一學年の始に於て諸君が種々なる計畫を立てらるるに當り、規則正しく又新鮮なる思想を以て聖書を研究するの習慣を造られんことを希望す、何故聖書を研究すべきか。

一、最大最高の思想に接せん爲なり。
二、此の思想の湧き出づる源の新らしき力に觸れん爲なり。
三、此の力によりて誘惑に勝ち、靈的の人とならん爲なり。
四、人の爲に善き事を爲し、人を神に導かんが爲なり。
五、日々の生活に於て神に近く基督に親み最も大なる幸福を得んが爲なり。

耶蘇の教へし正義（上）

柏井園

耶蘇の敎は正義の觀念に充ちて居る。殊に傳道初期の敎訓には最も多く表れて居る。馬太六。三三には　汝等先づ神の國とその義きを求めよ」とある。『その義しき」と云ふのは神の義しきと云ふ意味であるが、神の義とは何の事であるか。マイヤは、是は神が信者を助け神の國に達せしむる爲に彼等に賜はる道德的正義であると說明して居る。ステイヴンスの如き人は、是は神の心に適ひ神の嘉したまふ正義の意味であると解釋して居る。何れにしても人間が勝手に立てた義ではなくして神を基とし神の性質に一致した義であると解して誤は無からふと信ず。其の外、山の上の說敎の中には『饑ゑ渴くごとく義を慕ふ者は福なり」（馬太五〇六）と云ひ、又『學者とパリサイ人の義しきよりも汝等の義しきこと勝れずば必ず天國に入ること能はず』（馬太五〇二十）と敎へられて居る。基督御自身洗禮を受けられた時も『かく總ての義しきことは我等盡すべきなり』（馬太三〇十五）と云はれた。基督はさまざまの深き福音を說きたまふ前に先づ義といふことを高調せられたのは如何なる譯であらふか、考へて見る價値がある。正義といふことは字に譬へて云へば楷書の樣なものである。同じ善でも愛となつて表れる時には草書で書いた樣なものであつて、もつと自由で又變化に富んで居る。然るに義となる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とや、究屈な所がある。四角四面でなければならぬ。其にかかはらず字を習ふものは先づ楷書から習はねばならぬ如く、道德の第一歩は矢張り規矩の正しい義といふ所から始まらねばならぬ。別けても今日の我等は情感の滿足に傾きて道義の觀念の薄弱な時代の空氣を吸ふて居る者であるから此の時代の弱點に勝たれない爲に此の點に力を用ふる必要がある。

二

然らば耶蘇の說かれた義といふものは如何なる性質のものであるか。耶蘇は神の國の義とパリサイ人の義と對照して云はれた。故に此の二種類の義を比較する方が便利である。

(一)パリサイ人の義は斷片的である。耶蘇の義は包括的である。彼はパリサイ人を責めて『禍なる哉なんぢらパリサイの人よ、薄荷茴香および凡の野菜十分の一を取納て、義と神を愛することを廢』(路加十一 同四十二)と云はれた。彼等は義をば據なきこと、嫌でも行はねばならぬことと思つた。彼等には義を愛するの熱情がない。義しい人とならふといふ向上心が乏しかつた。基督の義は一切を包括した精神である。志である。

(二)パリサイ人の義は外部的であつて耶蘇の義は內部的である。之は別に精しく說明しなくても上の個條に連關して自から明であると思はれる。孟子に義は內に在るか外に在るかといふ議論があつて孟子は義は內に在るといふことを主張して居る。其處に出て居る公都子と云ふ人の言に『我が敬を行ふ故に之を內と謂ふなり』とある等は面白い言であると思はれる。(三)パリサイ人の義は自から義とする義であつて現狀に滿足する氣味がある。耶蘇は、『悔改むるに及ばざる九十九の義人』(路加十五〇七)と云はれたが、これは悔改むるを要せぬ程立派なといふ意味ではない。世の中にそのやうな人は無い筈である。寧ろ是は悔改むる必要を感ぜぬ人といふ意味に近い。路加十八〇九に『自から義と思ひ人を輕しむる或人』にパリサイ人と稅吏が祈に行つた話を語られた事が載つて居る。神の前に謙つて憐みを求めた稅吏が神の前に義とせられて家に歸つたと書かれてある。之でも分るが基督敎の義には謙遜にして常に理想に向つてあこがれる調子が伴ふて居る。韓退之は『己に足りて外に待つなき之を德といふ』と原道といふ文章に說てある、一面の眞理はあるに相違ないが、他の一面即ち自から足らぬことを感じ、碎けたる靈魂を以て神の助を求めるといふ基督敎的の德は忘れられて居る。先日も或人の話であつたが臺灣の蜜柑とカリフォルニヤの蜜柑と色は同じであるが臺灣の蜜柑には香りがない。基督敎の義には謙遜といふ特別の香りがある。此處が大なる相違である。

三

基督敎では義といふことを重んじ又愛を重んずるのであるが兩者の關係は如何であらうか。第十八世紀あたりの宗敎家は義と愛といふことを兩元的に考へて義から云へば罰する、愛から云へば赦るすといふ風に說いたものである。然れども是は聖書の敎へとは違ふ。其の證據には耶蘇は山上の說敎に於て具體的に神の國の義を說き來つて遂に惡に敵する勿れ、汝の敵を愛せよと云ふ所まで進んで居る。義が進んで愛と一

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

致して居るのである。又馬太傳六章一節に『其の義を人の前に爲すことを愼め』等ある所は全く義といふ文字を慈善といふ意味に用ひてあるのである。舊約に於ても義といふことは必ずしも愛と反對の地位に置てはない。イザヤ書の六十三〇一に『此は義しきを以て語り大に救を施す我なり』とある。其の他にも引照すべき所は少なからずあるが、要するに神は義しきものであるに係らず救ふのでなくして、義しきものであればこそ救ふといふのが舊約以來の精神である。スキンナアと云ふ學者の言葉に『義といふことの根本思想はエホバの性質の信賴すべきことと、一貫して居ることとであると見える』とある。神は如何なる場合に於ても神の神たる所を失はぬ、何處何處までも神は神らしくありたまふ。此處に神の義は存するのである。罰するに聖き神らしく罰すれば赦すにも神らしく赦す。此處に神の義は顯れて居る。故に保羅は羅馬書一〇十七に『神の義は之に顯れて信仰より信仰に到る』と云つて居る。

ヘレン、グウルド女史の聖句暗誦句略同盟

ヘレン、グウルド女史は米國に於て有名なる富豪グウルド氏の娘にして、宗教慈善の志篤き人なり。女史はまた米國の基督教女史青年會同盟の中央委員の一人なるが、數年前聖書の或る重要なる場所を暗誦し得る米國の青年會には、聖書を贈與することを始めたり。彼の女は各冊に自己の名を記して之を贈るを常とせり。今年羽田にて開かれたる夏期講習會の際、グウルド女史の手紙到着し、同じ計畫を日本に於ける女子青年會の會員にも及ぼすべきことを申し越れたり。されど同會に出席せられたる人のうち、青年會員たらざるものもあれば、必ずしも會員たるを要せざることゝなせり。グウルド女史の定めたる期限によれば、暗誦に要する時を一年半とせり。即ち、明治四十三年の末までとなるなり。此の同盟に加はりたる人は、夏期講習會の出席者のうち七十名ほどありしが、尚ほ加盟したき望みの方は、本部に申し込まるべし。左に暗記すべき聖書の章と節とを掲ぐ。

暗誦すべき聖句

汝の言は我が足の燈火、我が途の光なり。
（詩篇百十九〇百五）

舊約聖書の部

出埃及記二十章一—十七	十誡。
詩篇一篇	義人と悪しき人。
同八篇	神の榮光と人の價ひ。
同十八篇	神の所爲と其の言。
同二十三篇	エホバは我が牧者なり。
同二十七篇	恐れなく神に倚ること。
同九十一篇	隱家なる神。
同百三篇	神の惠みの讃美。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同百二十一篇	民を保ちたまふ神。
以賽亞五十五章	メシヤの苦しみと死の預言。
米迦六章八	メシヤの最後の勝利。
新約聖書の部	
馬太傳五章一―十六	
同五章四十三―四十八	
同六章	
同七章	
同十章二―四	十二使徒。
同十章三十二	基督を告白す。
同二十二章三十五―四十	律法の要領。
同二十五章	最後の爭の譬喩。
同二十八章十八―二十	大なる任命。
馬可傳十章十三―十六	耶蘇幼兒を祝福す。
路加傳九章二十三	基督に從ふものゝ義務。
同十五章	譬　喩。
約翰傳一章一―四	神の言なる基督。
同三章十六	神の愛。
同四章一―二十六	眞の禮拜。
同十章	善き牧者。
同十四章	汝じ心に憂ふる勿れ。
同十五章	我は眞の葡萄樹なり。
同十七章	基督の祈り。
羅馬書八章三十―三十九	基督より離れず。
哥林多前書十三章	基督教の愛。
雅各書一章十二	勝者の褒美。
默示錄二十一章二十二―二十七	天。
同二十二章一―五	

こゝろの花

▲昔時羅馬に於て基督教徒が激しき迫害を蒙りたりし頃、殘忍無道にも幾萬の市民は憎める教徒をかの演劇場に曳き出し怒り狂ふ猛獸と鬪はしめ、その死に至るを見て歡びたる事なり。彼等の鬪ふに先ち觀客の喝采を博せんが爲に、壯士をして眞劍の勝負を決せしむるを常とせり。一壯士幸にして勝利を得たる時は「占めた」と呼はりて、敵手の傷口を改ため、人民は拍手して之を稱し、敗を取れる者はかくて屢々死することあり。されど其期に臨んで一言の憾みにても口にする時は、觀客は彼を嘲けり「劍を受けよ」と呼はる。時としては夥多の人民劇場に下り來り、將に死に垂んとする勇者の苦むを見守り、或は其鮮血を啜る者さへありしといふ。

一日常の如く二人の勇士現れ出で、先づ「皇帝陛下萬歲、死に赴く者之を祝す」と呼はり、互に白刃を揮りかざして挑み戰ひ、その顏には汗したゝり、又塵に塗れて見るも悽ごき有樣にてありき。かゝる折しも突然年老たる一人の外國人、物をも言はず仕切を越へて躍り入り、二人の勇士の間に立ち双手を擧げて之を制し止めんとす。之に於てか叱聲四方に起り、「退けや、退けや、こゝな老耄奴」と騷がしく罵り合へり。されど白髮の翁は更に動かず、頑として岩の如し。之を見て一同憤りを發し前後の思慮もなく「切り棄てよ」と叫びし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かば、勇士聞に應じ劍を擧げて、地に平和を來らせんとするかの翁を殺し、屍を夾んで更に犇き鬪ひたり。

然れども此名もなき翁が爰に慘死を遂げたる事は、程なく羅馬の人心を深く感動せしめ、是よりして斯る忌むべく悪むべき慣習は令せざるも、漸く之を廢し、又再び之を行ふ者なきに至れりとぞ。

▲リビングストン曰く『余は基督のために凡ての危險を冒さんと欲す。唯だ基督のために献ずるもの丶少きを遺憾とするのみ。』

又曰く『余は前進だにすることとならば、何れに行くことをも甘んず。余が生命は前驅たるの資格に於て之を費すも益なしとせず。余は事業の前驅たるに甘んずるの志を保たんと欲す。』

又曰く『余は是等の艱難に遭ひしことを此に述べたれど、敢て之を犧牲的のこととなりと思ひしには非ず。余は天より降りて吾人のために死にたる君がために、吾人のなし得ることに、犧牲てふ言を用ゆるは不當なりと信ず。』（此は亞弗利加より其女に遣りて志を勵ましたる書翰の中の語ならん）

又曰く『神に對して限りなく負ひつ丶ある負債の一小部分の僅に償却せられしに過ぎざるものを犧牲と呼ぶ。豈に可ならんや……寧ろ之を特典の恩と言ふこそ善けれ。』

▲ホウヰツトフイールドは、人を訪ふて其の家に宿る毎に、必ず家庭に於て教を語り、一人々々に訴ふるを習ひとせしが或る時陸軍大佐なる人の家に宿まりしに、大佐は基督教徒たるを欲せざる人なりしも、ホウヰツトフイールドは、家族の心を盡したる歡待に心うれしく、且つは主人と夫人令孃等の一樣に美はしき性質に感じ入りて、彼等の性質今少しく優しさを缺き居たらんには、必ずなしたる可き信仰の談話を爲すことを好まざりき。一週間の滯在も今宵限りと云ふ其夜、神の靈彼に臨んでホウヰツトフイールドは睡る能はず。自ら言ひけるは、彼の人々は我に對して甚だ懇ろなりしに、我は彼等に誠を盡さゞりき。去るに先つて之を爲さゞるべからず、我は彼等に向ひて、彼等如何なる善き物を有するとも、若し耶蘇を信ずることなくば、亡ぶべき者なるを語らざるべからずと。斯くて起き上りて祈りをなしぬ。祈りの後も其の靈の中に倘ほ戰ひあるを感じたり。其舊き人は我は之を爲すこと能はずと言ひしかども、聖靈は警め告ぐる所なくして此家族を去る勿れと言ふを覺えたり。終に一計を案じ出し、之を承認し玉はんことを神に祈り、斯て其の指環を以て窓なるダイヤモンド形の硝子板に『汝なほ一つを缺く』と書き留め、自らは彼等に語ることを敢てなし得ざりしが、彼等の悔い改めんために切りに祈りつ丶、其の家を去れり。

ホウヰツトフイールド出て去るや否や、家の夫人は甚だホウヰツトフイールドに心服し居たりしことゝて、我は彼の室に上り行かん、我は神の人の在りし其の所を見るを好むなりと言ひつ丶上り行きしが、窓の硝子板に書かれたる『汝なほ一つを缺く』の一語其の目に留るや、此の語は一刹那に力ある宣告となりて婦人の心を打ちぬ。婦人言ひけるは、あゝホ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ウヰットフヰールド氏が人の家に留まる毎に、敎を說きて家の者の心に訴ふるを常とせしは我が知る所なるに、我家にては然かせざりしかば、彼は我等の事を餘り意に懸けざりしと思ひ、憮かし我家に在て困りしならんと思ひ居りしに、豈に料らんや、其心餘りに柔和にして、我等に語ることを遠慮せしならんとはと。斯くて其女兒等を喚び上げ、娘等よ茲に就きて、ホウヰットフヰールド氏が窓に書きしことを見よ、「汝なほ一つを缺く」とかや、また父上をも呼びて來玉へ。父も上り來りてまた之を讀みぬ。「汝なほ一つを缺く」。斯くて一同は神の人の寢ね居りし臥床を圍み、みな跪きて彼等の缺き居る一つを與へ玉はんことを神に求め、頓て其の室を去るときには、みな既に其の一つを得て、全家主に在て喜びぬ。爾後此の家にては、子孫へ傳ふる遺物として、今に至るまで此の硝子板を保存し居ると云ふ。

女子青年界

○河井道子女史の渡英

河井道子女史は向ふ一年間英國に赴かるゝことなれり。其の友人の多くは此の報に接して驚かるゝことならん。女史自身も諸友の九月歸京せらるゝを待たずして當地を去ることを遺憾とせり。女史が渡英せらるゝに至れる理由は、明年五月伯林に開かるべき世界大會の準備の爲め、萬國基督敎女子青年會本部より招聘せられたるに由れり。

女史はまた世界大會に關する或る大切なる委員會の議長たらんことを請はれたり。其の友人は皆な斯る大切なる位置に選ばれたる女史の大なる名譽を喜ばるゝことならん。之と同時に女史は日本に於て爲すべき學校、敎會及び青年會等多くの事業を休まざる可らず。されど女史が日本の爲に大切なる事業を爲すに一層有力なるものとなりて歸朝せらるべきを疑はず。女史は八月二十八日獨逸汽船ビュロォに搭じて橫濱を出發せり。新橋に見送りしもの百名に及び、其のうち橫濱にまで見送りしも少なからざりき　倫敦に着せらるゝは十月十四日頃ならん。同地に於ける河井道子女史の宿處は左の如し。

Care of the world's Commitee of the
Yong women's Christian Association,
28 George Street, Hanover Square.
London W. England.

○河井女史の送別會

東京麴町區三番町四十一番地に新たに移轉せる基督敎女子青年會本部に於て、去ぬる八月二十六日別項記する如く此度渡英する河井女史の爲めに送別會を開きたり。來り會せる女子七十五人に及べり。元良操子孃の司會にて一同讚美を歌ひたる後、河島よし子孃祈りを捧げ、小金井孃送別の辭を述べ、後藤久子孃餞として河井女史に旅行用手提げカバンを贈りたり。女史は之に答へ、其の親切を心より謝せり。式後親睦を爲し、何れも樂しき交りをなしたり。

○三谷民子女史

女子學院の三谷民子女史は去る七月英國オックスフォルドに開かれたる萬國學生基督敎青年會に臨席せられたり。同女

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

史は同大會に於ける女學生の爲めに更に青年會事業を擴張するの必要なる旨を演説せり。

同女史は十月日本に歸へらるべし。我等はオックスフォルド大會及び同女史外遊の狀況等を詳しく聞かんことを欲す。

○印度のミス、シンの訃音

二年前東京に開かれたる萬國青年會大會に出席したる人は其の會に參列したる印度の淑女、リリバチ、シン女史を記憶せらるゝならん。彼の女は日本にあるうちに多くの人に尊重せられ、其の大會後婦人部の委員長に擧げられたり。今此人を失ふのは只に印度に取りて損失のみならず、世界の女子青年會の損失たらずんばあらず。今米國の女子青年會の雜誌に見えたる彼の女の傳記を摘載すべし。

シン女史は今を去ること四十一年前、印度のゴラアポォルに於てクリスチャンの兩親より生れ、十歲の頃ミス、ソオボルンの建てたる學校に於て教育を受けたり。彼の女は此の學校にて受けし恩義を感謝を以て記念したり。此の學校に居るうち一家に不幸のこと起り、父は財產の大部分を失ひしかば、最早學費を供する能はざるに至りぬ。されど彼の女は學校を退くを好まず、然りとてまた給費生となるを肯とせず、教務を助けて其の費用を辨ずるを得たり。此の間彼の女は貧苦と戰へり。遂に大學の入學試驗に及第し、カルカタのベチユエン、カレージに於てバチエラア、オブ、アーツの學位を得、後ちアラハバッド大學よりマスタア、オブ、アーツの學位を授けられたり。されど彼女は官途に就きて立身するよりも、恩義あるソオボルン、カレーヂを敎ふることを好み、十七年の間此の學校を敎へたり。彼の女は日本に來るまて、女子青年會と何らの關係なかりしも、印度の婦人を代表すべき人は之に優るものなしとの故を以て參列員となりしが、爾來此の事業に深き關係を有するに至れり。九年前彼の女はラクノカレーヂの副校長に擧げられ、一昨年校長として推薦せられしが、彼の女は米國に二年を費して修養を積みたる後、其の任に當るべしとて、昨年五月印度を去りて、八月に米國に達したるが、非常の疲勞を感じ此間已に輕ろからざる病を得たるなり。本年五月に至り病漸く重くシカゴの或る病院に入り手術を受けたるが、其の經過良好ならずして、五月九日即ち日曜日の夕、天の故鄕に歸りたりといふ。

○青山女學院女子青年會

以前我が校に傳道會なるものありて會員は每月參錢を納め一ヶ年の總收入凡そ參拾圓を琉球傳道の爲めに送りしが青年會の組織されし以來此送金を繼續する事困難となれり傳道部の或る者は甚だ之を遺憾とし全力を盡して働きしも尙ほ足らずして憂へ居たりしが折から會長より米國傳道會社の事を聞き是れが動機となりて役員協議の結果會員以外の者にても若し心より神に献ずるものあらば月々金貳錢以下を出す事に定めて補助者を募りしに殆んど全校一同之に賛し各々力を添へんことを約す依て今日にては一ヶ年間に於ける其收入豫算四拾餘圓に上るに至れり我等青年會員の歡喜例ふべきなし

○名古屋聖使女學院青年會

六月五日（土曜日）午後三時聖使女學院內に於て例會を開く名古屋地方裁判所長深野氏に前回につゞきて民法の婚姻に關する件につき講演を依賴す猶廣瀨姉の「凡ての事感謝すべし」との感話あり午後一時祈を以て閉會す

七月三日（土曜日）午後三時例會を開催す市立名古屋高等女學校敎諭齋藤氏常識の必要につき譬喩的講話ありて鳥羽姉智識の源と云ふ題にて熱心なる訓話あり出席者廿二名。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

The Young Womens Christian Association Union of Japan

Mrs. H. Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A. G. Lewis, Recording Secretary
Mrs. G. M. Fisher, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Sumi Miyagawa, Corresponding Member of the World's Student Christian Federation

Resident Members	Non-Resident Members
Miss A. B. West	Miss K. Tristram, Osaka
Dr. Tomo Inouye	Mrs. R. Araki, Osaka
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Mrs. Koharu Nakajima	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss F. D. Denton, Kyoto
Miss Sarah Ellis	Miss Wynne Willson, Nogoya.
	Miss Charlotte De Forrest, Kobe.

Miss A. Caroline Macdonald, General Secretary
Miss M. L. Matthew, Tokyo Secretary
Headquarters :— 41 Sanbancho, Kojimachi, Tokyo

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。
一、日本基督教女子青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し、

委員長　井深花子
副委員長　岡見恵子
記録書記　エ、ジー、ルイス
會計　フィシャー
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
萬國學生基督教同盟會委員　宮川すみ子

東京在住委員
エ、ビー、ウエスト　井上友子
平野濱子　鈴木歌子
中島小春　サラ、エリス

地方在住委員
大阪　ケー、ツリスツラム　京都　佐伯小糸
京都　デントン　名古屋　ウインウイルソン
廣島　エヌ、ビー、ゲインス　神戸　デフチレスト
大阪　荒木幸子

日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エム、エル、マシウ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治四十二年九月十五日發行（每月一回十五日發行）

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN

OF

JAPAN

Vol. VI. *September 1909.* *No. VIII.*

SUMMER CONFERE NUMBER.

EDITORIALS:—
A Secret of Personal Influence. E. K.
Sermon:—
The Divine Preparation. Rev. H. Otani.
Quiet Hour:—
Where is God's Will. ? Rev. T. Shirai.
The two aspect of Death.
Leading Article:—
Robert Browning's "Andrea del Sarto."
Miss C. Macdonald.
Biography:—
Hellen Keller's Experiences (II). T. S.
Bible Study:—
Why we must study Bible?
Rightiousness as taught by Jesus. Prof. E. Kashiwai.
Miss Gould's Prize.
Association Notes:—
Editor's Table:—

（東京神田美土代町 三秀舍印行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA